

人を幸せにする技術とハートを
持った才能が生まれています

これは、いったい何をしているところでしょうか？ 実はこれからの高齢化社会で予測される健康問題を解決するための実験中なのです。場所は帝京大学の福岡医療技術学部。そこにはリハビリテーションの専門家、理学療法士を育てる学科があります。「この実験では、高齢者の筋力訓練の効果を検証しています。従来のマシーンを使った訓練と、新しく開発された電気刺激を利用した訓練を比較して、どちらがより高齢者の方に適しているかを総合的に判断するわけです」。解説していただいたのは、老年期理学療法を専門的に研究している高野吉朗先生。福岡キャンパスがある大牟田市は、全国でもトップレベルの高齢化地域です。65歳以上の高齢者は、全国平均が22・1%なのに対して大牟田市は29・1%。10年先を進んでいると言われています。「地元の方々には、いつも実験にご協力いただいています。大牟田市では高齢者医療や福祉の取組みが先駆的に行われているので、大学としても介護予防の研究など、地域に積極的に貢献していきたい。それは同時に学生たちにとっても、実践現場に関わるチャンスになっています」。今回の実験にサポート役として

て参加した理学療法学科の稲富愛さんと玉置円香さんは、こう話してくれました。「理学療法では、子どもから高齢者まで、さまざまな世代の方と触れ合えます。そこでは高いコミュニケーション能力が求められるので、実験や介護施設・公民館でのボランティアなどを通して、日々勉強中です。高野先生は、理学療法士とは人を幸せにする技術とハートを持ち合わせ、人が人を癒す尊厳を実感できる職業なのだとおっしゃっていて、いつも「謙虚さ」「朗らかさ」「素直さ」の3つを持ち合わせるよう言われています。先生の言葉を噛み締めて毎日がんばっています」。そのホスピタリティは、受け手の心にも伝わるもの。実験にご協力いただいたみなさんにも感想をうかがいました。「この学生さんたちは、みんな素敵。こんなに温かい気持ちで接してもらえると、立派な理学療法士になってくれるのを心待ちにしています」。福岡医療技術学部では、毎年、理学療法法の最先端といわれているアメリカカへ研修に出かけています。高野先生は昨年の研修を終え、「日本は決して引けを取っていない、自信を持っていい」と感じたそう。日本は高齢化先進国。理想的な未来ヴィジョンがここで生まれ、世界に発信されていく日も近いのかもしれない。

feel TEIKYO



あなたにつながる帝京大学 撮影・加藤アラタ



帝京大学 本部大学PR推進室
TEL.03-3964-4162
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1



帝京大学をもっと感じるマガジンをお届けします
帝京大学のあれこれを心地よい写真とともにお届けする冊子
「feel TEIKYO」キャンパスライフ編・ジョブガイド編を配布中。
請求先→03-3964-4162 (本部大学PR推進室)